

猫が舐めても平気なコーティング材

引っかきに強いフィルムでクロスの表面を強化

本紙11月16日号で特集した通り、少子高齢化で猫を飼う世帯が増加傾向にある。一部の猫共生物件はキャンセル待ちがでるほど需要があり、供給がそれに追いついていない。では、猫共生物件はどのように造れば良いのか。猫の賃貸物件と愛猫家物件建築のスペシャリストである2名にそれぞれ最もおすすめする建材・サービスを聞いた。

クラシラ（東京都葛飾区）の杉浦雅弘社長がおすすめするのは、選択できる色や柄が多く（35色）発色が綺麗なルノン（東京都品川区）の表面

強化クロスで、日比野設計（神奈川県厚木市）とのコラボレーションカラ「幼児の城」シリーズだ。

同商品は強度のあるシート樹脂に、フィルムラミネートを施すことでさらなる強化を図っている。衝撃や引っかき傷、汚れのケアなどを必要とするペット共生物件に最適だという。汚れも落とすやすく、抗菌性能で細菌の繁殖も抑える。食品包装に使用されている、安全性の高いフィルムだ。

また、フローリングには木目デザインの本目デザインのものが多いサンゲツ（愛知県名古屋市の塩比系フロアタイルの「WOOD（ウッド）」シリーズ、柄のパリエーションの豊富な東リ（兵庫県伊丹市）の防滑性ビニル床材「NSシート」などが、滑りにくく上に傷がつきにくく、掃除もしやすいという。

床にコーティングを施すことで猫向けにすることもできる。エコプロコート（神奈川県横浜市）のコーティング「ねこちゃんの床」は、同社が現地を調査した後に施工す

話す。コーティング後の床は光沢があり、一見滑りそうに見えるが、実際は「傾斜のある床を靴下で上っても滑らなかつた」と前田敦計画工房（東京都新宿区）前田敦代表は

る。コーティングする樹脂は厚生労働省が定める「食器の安全性」規格に適合しているので猫が舐めても健康に問題がない。また、フローリング本体を嘔吐などの汚れや引っかき傷などからも守ることができる。



▲「ねこちゃんの床」パンフレット

▶「幼児の城」コラボレーションカラのパンフレット

